

## (16) 川面(かわずら) 鉱山跡

参考文献(1)を手引きにして、栃木県佐野市暮坪にある川面鉱山跡を探查した。栃木県には至る所にマンガン鉱山跡がある。この鉱山の主要産物もマンガン鉱物である。しかし、「川面鉱山には、母岩のチャート中に径1cmに及ぶ黄鉄鉱の自形結晶が含まれていることがある」と言う解説文に惹かれたのである。出川地区から北北東に延びている林道に入る。赤印を着けた鉱山跡近くまで、車で行き着ける。少し広い場所があるのでそこに車を駐車させると良い。そこから徒歩で100m~200mほど林道を登っていく。その間の左側にある小沢には所々にマンガン鉱の転石が落ちている。鉱山跡はマンガン鉱山であることがわかる。そのうち、左手に広いズリ跡が見えるようになる(写真)。一目瞭然である。ズリ跡を左にして、林道を更に少し登っていく。左手のズリの消えた当たりが、参考文献(1)で紹介されている現場写真の撮影地点である。当時は、ズリ跡は明るく広く開けていた。現在は大きな立木の下となっている。が、ズリの上の平坦な部分は生きており、林の下に鉱山跡の遺物も少しは残っている(写真)。このズリでゆっくりと採集を行った。が、期待に反して、数mm程度の単結晶のある鉱石しか採集できなかった。1,2回程度の探查では甘いことはわかっているのだが、そのうちに何度も挑戦しようと考えている。このズリには、マンガン鉱物は今でもたくさん残っている。マンガン鉱物に興味がある方には、お勧めである。

ズリが終わった先、右前方の方に林道が続いている。これを100m登り上がる(途中右手斜面に坑口跡あり)と、平らな部分にでる(写真)。鉱山の作業跡のようである。回りを探して、2つの坑口跡を見つけた。このあたりにズリがあると思うのだが、詳しくは探查していない。次回以降にやろうかと考えている。



地図 国土地理院 2万5千分の1地形図「番場」

探查日 2009年5月、その他の日

参考文献

(1)「鉱物観察ガイド」、松原 聡編著、東海大学出版会、2008年。

## 鉾山跡写真



細い林道の左手にあるズリ面。じっくりと探査ができる。



参考文献の写真と同じ地点からズリ面を撮影。時の流れを感じる。  
右上の木立の中が一応平坦部分である。



ズリから更に林道を右上方に登り上がった所の平坦地。平坦地前方からの撮影。  
今ではごらんのような巨木が立っている。前方の両側に坑口有り。  
登ってきた林道は左手奥となっている

## 採集鉱物写真

品名	黄鉄鉱
化学組成	$\text{FeS}_2$
色	真鍮黄
光沢	金属光沢
条痕	緑黒～褐黒
比重	5.0
硬度	6
結晶系	等軸晶系
劈開	なし
共生鉱物	石英、方解石、黄銅鉱、閃亜鉛鉱
解説	



母岩のチャート中に数mm以下の黄鉄鉱結晶が多数ある。  
小さいながら綺麗な立方体を示している



左の母岩のチャートに少し角がかけている約4mmの黄鉄鉱結晶